

国立大学法人大阪大学総長選考・監察会議（令和6年度第8回）議事録

日 時 令和7年3月18日（火）13時30分～15時30分

場 所 大阪大学中之島センター

出席者 （経営協議会選出委員）

金倉委員、塚本委員、蓮輪委員、藤井委員、村木委員

（教育研究評議会選出委員）

大政委員、栗原委員、敦賀委員、中野委員、西村委員、深川委員

議 題

1. 運営方針委員候補者について

西尾総長から、配付資料に基づき、運営方針委員の退任に伴う次期候補者の選考理由や期待される専門性と経験について説明があり、協議の結果、当該候補者を次期候補者とすることについて了承された。

2. 総長の業績評価について

(1) 総長による業務執行状況の説明

(2) 総長に対する質疑応答

西尾総長から、令和6年3月から令和7年2月までの期間における業務執行状況について説明があり、続いて質疑応答を行った。

質疑応答における発言は次のとおり（◎は西尾総長の回答）。

●共同研究の件数がここ数年頭打ちになっているが、今後の展望について伺いたい。

◎件数が大きく増減しない中で金額が増加していることは1件あたりの共同研究費が増加していることによるものであり、本気の共同研究が増えていると分析している。また、GIFT事業により研究スペースを拡大させることにより、共同研究の件数は伸びていくものと確信している。

●若手研究者の活躍が目覚ましいが、その要因を伺いたい。

◎有名な賞の受賞者が増えている要因としては、経営企画オフィスによる若手研究者の把握分析が進んでいることもあるが、総長裁量経費で戦略的に優秀な若手研究員を獲得できているのが大きいのではないかと感じる。今後もより一層、研究環境を充実させていかなくてはならない。

●戦略会議毎の部局横断型の教育プログラムが企画されているが、戦略会議の枠を超えた教育プログラムを企画する必要があるのではないかと感じる。

◎戦略会議毎に議論を行った後、さらに戦略会議議長による議論が行われて企画された素晴らしい教育プログラムだと思っている。

●国際卓越研究大学への申請に向けた部局との議論の場が減っていると感じる。現在の検討状況を伺いたい。

◎大学としては、中身の磨き上げの次の段階として、伝え方、見せ方を検討する段階に入っている。次期総長と検討チームが日々議論を重ねている。

●総長としてやり残したことはあるか。

◎ハラスメントを撲滅できなかったことである。ただし、事案が生じた際に、現場から執行部へしっかりと報告・相談を上げるよう発信し続けた結果、その意識付けを浸透させることができたと考えている。

●国際卓越研究大学に採択されると、一番変わる部分は何か。

◎UR A等を雇用すること等、研究者が研究に専念できる環境が整備できる。若手研究者が希望を持てる大学となることが重要で、研究時間を確保するためにもアドミニ職員との分業を進めていかななくてはならない。

(3) 監事との意見交換

監事と意見交換を行った。

質疑応答における発言は次のとおり（◎は監事の回答）。

●国際卓越研究大学に採択されるとトップダウンの大学運営になるのではないか。

◎本部は部局の課題を吸い上げて解決していくべきである。部局が本部へはっきりと発言していく必要があるのではないか。

(4) 総長選考・監察会議による業務執行状況の確認

議長から、今回の業務執行状況の説明を受けて、特に評価できる業績や課題等について、追加で意見があれば後日書面にて提出いただくよう依頼があった。その後、今後の取りまとめと公表に係るスケジュールについて説明があった。

3. 令和6年度に実施した総長選考について

議長から、各委員から事前に提出された令和6年度に実施した総長選考の課題等について配付資料のとおり取りまとめ、次回総長選考に向けて申し送ることについて説明があり、審議の結果、了承された。